

ニッポンハム食の未来財団 2023 年度第二期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	食物アレルギーの啓蒙とアレルギー児が安心して生活するためのサポートツールの作成と普及
フリガナ	ヤマウチ ミエ
申請者（代表者）氏名	山内 美枝
団体名（正式名称）	団体名：いわてアレルギーの会 申請者の役職・肩書など：代表

1. 活動結果要約

食物アレルギーオンライン講演会では、490 名の申込みがありました。食物アレルギーに関する最新情報を提供し、アレルギーの最新情報を正しく知り、アレルギーを持つ方々が災害時に備える重要性について理解を深めてもらうことができました。また、アレルギーのある子供を預かる側に対して、ヒヤリハット事例を共有する必要性を伝えることができました。さらに、アレルギーの子供を持つ保護者と学校が協力して誤食を防ぎ、緊急時に備えるための具体的なルールや実例を共有することができました。岩手県アレルギー相談窓口に寄せられた質問の中から、よく寄せられる質問への回答を共有することで、同じ悩みを抱えている方々にとって役立つ情報提供ができました。

活動の一環として、食物アレルギーを持つ人々に向けて、食物アレルギーサインプレートを届けることができたほか、必要としている家族に「食物アレルギーを持つ家族と小学校の共有ノート」を提供し、ツールの存在と有用性を広めることにも成功しました。岩手県アレルギー総合情報サイト「アレルギーポータルいわて」や、当会の連絡先を記載したカードやリーフレットを配布することで、平常時や災害時に困った際の連絡先を周知することができました。これにより、アレルギーのある子供を持つ家庭が安心して学校生活を送るための支援体制を強化する一助となりました。

2. 活動目的

【目的】

アレルギーっ子が安心して生活できる社会の実現を目指す

災害時や日常生活において食物アレルギーに対する誤解や不安を減らし、アレルギーを持つ人々やその家族が安心して支援を受けられる環境を整えること。具体的には、食物アレルギーに関する正確な情報を地域全体に広め、アレルギーに関する支援ツールの普及を促進すること、そして小学校入学前の保護者の不安を軽減するためのサポート体制を強化することを目指して活動を行いました。

3. 活動方法

①食物アレルギーオンライン講演会の開催

開催時期：2024 年 1 月 1 日～2024 年 1 月 10 日

2024 年 1 月 20 日～2024 年 1 月 30 日

内容：第一部 アレルギー疾患の Up to date

第二部 ヒヤリハットからみんなで対策を練ろう

第三部 災害への備えと対策 ～アレルギーの視点から～

第四部 相談窓口の質問から ～よくある質問～

第五部 エピペンの使い方とポイント

申込者数：490 名

視聴回数：合計 2780 回

第一部 845 回、第二部 565 回、第三部 500 回、第四部 448 回、第五部 422 回

講師：第一部 佐々木美香氏（国立病院機構 盛岡医療センター 副院長）

第二部 佐々木朋子氏（国立病院機構 盛岡医療センター 小児科医長）

第三部 村里 智子氏（国立病院機構 盛岡医療センター 管理栄養士）

第四部 増本佳泰氏（国立病院機構 盛岡医療センター 小児科医師）

第五部 菅原 彩氏（国立病院機構 盛岡医療センター 薬剤師）

周知方法：Facebook、Instagram、公式 LINE、岩手県、岩手県教育委員会、

岩手県栄養士会、岩手県アレルギー疾患医療連絡協議会、

岩手県消防本部、岩手医科大学病院、盛岡医療センター

参加対象：岩手県内にお住まいの方とお勤めの方

<計画時との差異>

変更：内容、講師については岩手県、盛岡医療センターと相談し、一番伝えたい内容に変更。

②食物アレルギーサインプレートの作成と配布

セット数：1300 セット

セット内容：A4 ユボ紙 1 枚（カード 2 枚、緊急時カード 2 枚）、

プラスチックカード 1 枚、シート小 2 枚、シート大 1 枚、

キーホルダー 1 個、安全ピン 1 個、カードホルダー 1 個

配布方法：食物アレルギー講演会

岩手医科大学と盛岡医療センター（岩手県アレルギー疾患拠点病院）

各地域のアレルギー親の会

岩手県栄養士会

各地域の保健センターから乳幼児健診等（依頼のあった市町村のみ）

岩手県アレルギー疾患医療連絡協議会委員

<計画時との差異>

なし

③岩手県アレルギー総合情報サイト「アレルギーポータルいわて」を周知するためのリーフレット・

SOS 連絡先カード作成と配布

枚数：リーフレット 1000 枚

SOS カード 500 枚×3 種類（各地域の親の会）

配布方法：②と同様

<計画時との差異>

変更：活動を制限している親の会の SOS カードを作成・配布対象外とし、近隣の親の会の SOS カードを配布したため種類と枚数が変更

④『食物アレルギーの子を持つ家族と小学校の共有ノート』の作成と配布

冊数：2000 冊

配布方法：②と同様

<計画時との差異>

変更：県内の未就学時通園施設と小学校への配布用として冊数を変更。

各市町村の県教委から各市町村への配布は現在調整中。配布可能か県教委で検討中。

4. 結果及び波及効果

2023 年 1 月に開催した食物アレルギーオンライン講演会には、490 名もの参加申込があり、多くの方々が関心を寄せていることが確認できました。この講演会では、食物アレルギーに関する最新情報を提供し、多くの方にアレルギーを正しく知ってもらうことが出来ました。アレルギーを持つ方々が災害時にどのように備えるべきかを具体的に理解してもらうことが出来ました。東日本大震災津波の経験から、自助・共助・公助の考え方や、具体的に備えておくべきアレルギー対応非常食の選び方や緊急時に必要な物資のリストなどを紹介し、多くの参加者から「今まで考えが及ばなかった点を学べた」との反響がありました。（アンケート結果を添付しますので、参加者の声をご覧ください。）

また、アレルギーのある子供を預かる保育者や教育者に向けて、実際に起こり得る「ヒヤリハット」事例を共有し、その重要性を伝えることで、誤食などのリスクを減らすための具体的な対応策を考えるきっかけを提供しました。これにより、学校や保育施設でのアレルギー対応がより一層強化されることが期待されます。

さらに、アレルギーを持つ子供を育てる保護者と学校が連携して誤食を防ぎ、緊急時に備えるためのルールやエピペンの使用方法などの具体的な緊急時の対応事例を共有しました。学校内での対応が統一され、安心して学校生活を送れる環境づくりが進みました。

岩手県アレルギー相談窓口に寄せられたよくある質問への回答を共有する取り組みも行い、同じ悩みを抱えている方々にとって非常に役立つ情報を提供できました。この情報共有により、各家庭やアレルギーのある子供を預かる保育者や教育者の対応がよりスムーズになり、日常生活での不安が軽減される効果があると想定しています。

活動の一環として、食物アレルギーを持つ人々に向けて、アレルギーサインプレートを配布し、必要としている家族には「食物アレルギーを持つ家族と小学校の共有ノート」を提供しました。これにより、学校と家庭との連携が強化され、誤食や緊急時の対応がより効果的になるとともに、アレルギーに対する意識が高まりました。

また、岩手県アレルギー総合情報サイト「アレルギーポータルいわて」や、当会の連絡先を記載したカードやリーフレットを広く配布し、平常時や災害時に困った際の連絡先を周知しました。これにより、困ったときに迅速に対応できるネットワークが地域内に構築され、アレルギーを持つ家庭がより安心して日常生活を送れる環境が整えられました。

これらの活動は、アレルギーを持つ方々やその家族、学校、地域社会全体に広がり、アレルギーに対する理解と対応が一層進む波及効果を生み出しました。結果として、地域全体での支援体制が

強化され、アレルギーに対する誤解や不安が減少し、共に安心して生活できるコミュニティづくりに貢献しました。

5. 今後の活動について

・アレルギーオンライン講演会の継続

食物アレルギーだけでなく、アトピーや喘息等の他のアレルギーについても幅を広げて普及啓発を継続することが必要と考えている。アレルギーがある人だけでなく、多くの方にアレルギーを正しく知ってもらうことで、アレルギーがあっても安心して生活できる環境を整えることが出来る。

・食物アレルギーサインプレートセットの作成と配布

東日本大震災津波の経験から、声をあげるための手助けとなるツールとして活用してほしいと考えている。

・『食物アレルギーの子を持つ家族と小学校の共有ノート』の作成と配布

学校と保護者の連携に苦戦している保護者や教育者が多くいる。現在、岩手県では指針改定を検討しているが、改定して終わりではなく、学校は指針を理解し、上手く活用できる状態を作らないといけない。共有ノートの普及を継続する。

以上